

事後評価点検表

事業名	中山間地域総合整備事業（一般型）「天王地区」
担当部署	北部農と緑の総合事務所 耕地課（連絡先 072-627-1121 内 426）
事業箇所	豊能郡能勢町天王
内容	<p>□事業目的</p> <p>豊かな自然と美しい田園景観を、地域資源として将来にわたり確保し、地域農業を持続・発展させるため、農作業の効率化等を図る農業生産基盤、定住環境を確保する生活環境基盤、生態系保全施設等の整備を行う。</p> <p>□事業内容</p> <p>農業生産基盤 ほ場整備 A=21.9ha 農道 4路線 L=3,720m 農業用排水路 2路線 L=3,206m 農地防災 ため池 1箇所 暗渠排水 A=8.9ha</p> <p>生活環境基盤 農業集落道 1路線 L=244m 集落防災安全施設 防火水槽 1箇所</p> <p>交流基盤 交流拠点整備 トレ 1箇所</p> <p>生態系保全施設 生態系保全水路 2路線 獣害防止柵 L=21.2km</p>
関連事業とその現状	農業集落排水事業：事業主体(能勢町) H17 ～ H21
社会経済情勢の変化	<p><平成12年（事業採択年度）から平成22年の推移> ※農業センサス調べ</p> <p>能勢町の人口については、14,186人から11,659人と約18%の減少（2,527人減）となっている。</p> <p>一方、農家数については、1,190戸から1,039戸と約12%の減少（151戸減）となっており、人口減少の割合よりは低くなっている。</p> <p>また、農業の担い手である基幹的農業従事者数については、554人から618人と約12%の増加（64人増）となっているが、うち60歳以上の割合を見ると約87%から約91%と高齢者の割合が非常に高く、今後、担い手の減少が危惧される。</p> <p>なお、耕地面積については、1,120haから1,090haと約3%減少（30ha減）であり、農業者数に比べ減少割合が少なくなっている。</p> <p>平成12年に「観光物産センター」が開設され、能勢の地で育った農産物の販売をはじめ、レストランでは地元の素材を使ったふるさと料理を提供するなど、地域の特産物を通じた都市と農村の交流が図られている。また、平成13年4月には、道の駅「能勢（くりの郷）」としてオープンし、多くのドライバーの方々にもご利用されており、直売所の来場者数（レジ通過ベース）は、平成12年度約21万人、平成22年度では約33万人と増加している。また、売上高についても、平成12年度約1億3千万円であったが、平成22年度には約5億円と着実に伸びている。</p> <p>府では、平成20年4月に「大阪府都市農業の推進及び農空間の保全と活用に関する条例」を施行しており、その条例に基づき、平成20年5月、能勢町で「守るべき農空間」として約834haが農空間保全地域に指定されている。</p>

事業実施による環境の変化	<p>本地区は、能勢町の最北端に位置し、深山を代表する山々に囲まれ、特別天然記念物である材木ヅウツツや木ノ等が住む自然環境豊かな地域である。また、本地区は都市近郊の農業生産地として、古くから天王川・奥野々川・細谷川やため池を用水源として、水田農業を営んできた地域で、水稻の他にトマト、ナス、キャベツ、栗等が作付けされており、中でも天王トマト(桃太郎)や栗(銀寄)は能勢ブランドとして確立している。</p> <p>従来から、本地区を流下する河川やため池は農業生産の主要な水源であるとともに、防火用水、生活用水等の地域用水源として、重要な役割を担っていたが、施設の老朽化が進行しているとともに、農業従事者の高齢化により施設の維持管理が困難な状況となっていた。</p> <p>また、イノシシや鹿等による農作物の被害の増加に伴い、遊休農地の発生が見受けられる。</p> <p>本事業実施により、狭小で点在した農地の集団化や大区画化、農業用水路や農道の整備、獣害防止柵設置など営農条件が改善され、農業経営の安定化、優良農地の保全が図られた。</p> <p>また、農業集落道路や防火水槽の整備により、安全・安心な生活環境が確保されるとともに、交流施設として整備された多目的広場では朝市が開催され、地域内外の住民による地産地消を通じた交流が盛んに行われている。</p>
最終評価時の意見具申と府の対応	<p>評価の対象外</p> <p>「意見具申」</p> <p>「対応方針」</p> <p>「具体的な取組み内容」</p>

	【事業採択時点 H12】	【事後評価時点 H23】	【分析】
事業費	11.0億円	11.6億円	農地の効率的な利用を図るため獣害柵等の追加を行うなど、ほ場整備地区内の整備内容精査を行った。
①事業期間 ②採択年度 ③着工年度 ④完成年度	① 5年 ② H12年度 ③ H12年度 ④ H16年度	① 7年 ② H12年度 ③ H12年度 ④ H18年度	整備内容の精査及び追加整備の実施により、工期を延伸した。
費用便益分析	○費用便益分析 農道整備 B/C=1.18 ほ場整備 B/C=1.03 農地防災 B/C=1.62 総合 B/C=1.06 ○便益総額 B=10.0億円 ○総費用 C=9.4億円	○費用便益分析 農道整備 B/C=1.08 ほ場整備 B/C=1.10 農地防災 B/C=1.02 総合 B/C=1.09 ○便益総額 B=10.3億円 ○総費用 C=9.4億円	・農道：舗装等により走行の安全性と荷痛み防止効果が発揮された。 ・ほ場：優良農地の保全と集団化により営農の効率化が図られた。 ・防災：ため池改修により、農業用水の安定供給確保と災害防止効果が発揮された。
定性的効果	(活力) ・ほ場整備等の基盤整備により農地の集団化、農作業受委託による経営規模拡大等地域の活性化を図る。 (安全・安心) ・狭小な農道を拡幅し、舗装により走行の安全性と荷痛み防止を図る。 又、老朽化したため池、水路及び防火水槽を改修等する事で、洪水時における堤体の決壊や溢水被害を未然に防止し、集落の安全な生活環境が形成される。	(活力) ・農業者の担い手の高齢化が進む中、農地の集団化等の整備により、維持管理の省力化が図られ、地域農業の振興に寄与し、主要農産物のブランド化が図れた。 (安全・安心) ・農道舗装等により安全な生活環境が確保された。 ・老朽化したため池、水路及び防火水槽等が改修されたことにより、安全な生活環境が確保された。	初期の目的を達成。 初期の目的を達成。

定性的効果	(快適性) ・農用地と緑豊かな農空間の創出により、良好な生活環境が形成される。 (その他) ・整備区域に生息する特別天然記念物のオオサンショウウオやホタル等へ配慮した整備により、生態系を保全する。 又、鹿やイノシシ等の野生動物との共生をめざし獣害進入防止柵を設置する。	(快適性) ・拠点整備として多目的広場の駐車場、トイレの新設により、朝市等による都市住民との交流が図られた。 (その他) ・生態系に配慮した工法による整備により、特別天然記念物等が保全されると共に、野生動物との共生(棲み分け)等に寄与した。	初期の目的を達成。 初期の目的を達成
その他特記事項	事業完了後の維持管理は、土地改良区を中心として、地域住民や地元水利組合が行っている。		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・農業生産基盤：ほ場整備をはじめ、農道、用排水路、ため池、暗渠排水整備、獣害柵設置等により、営農意欲及び作業効率向上、維持管理の省力化、ため池の決壊及び溢水による被害防止等が図られ、事業目的が達成された。 ・生活環境基盤：集落道路及び防災安全施設(防火水槽)を整備したことにより、1～2mと狭小で、消防・救急等の緊急車両や営農車両の進入に支障をきたしていた集落道路が通行可能となり、防災面で安全性の向上が図れた。また、地下埋設防火水槽を設置したことにより、火災時には即時の防火活動が可能となり、集落の安全性が確保され、事業目的が達成された。 ・交流基盤：現在、集出荷施設で天王朝市を実施しているが、展示スペースや駐車場トイレも無い状態であったが、多目的広場とトイレを国道沿いに整備したことにより、地域内外の住民による地産地消を通じた交流が盛んとなり、事業目的が達成された。 ・生態系保全施設：農業用水路について、地区内に生息するオオサンショウウオ(特別天然記念物)などの生態系に配慮した自然護岸を整備。事業完了5年後のモニタリング調査では、工事中に保護した個体に加え、新個体も整備後の環境に適応していることがわかった。 また、整備を契機に天王小学校の農業・農空間および環境学習の場として活用されている。 		
今後の同種事業に対する改善措置等	<p>本地区での実績を生かし、次の点について今後の事業で留意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域農業の持続発展と農空間保全に向け、地域住民とともに地域の将来像を検討していくことが重要。 ・また、環境に配慮した整備についても、環境学習活動と連携するなど地域合意のもとに実施し、モニタリングによる成果の共有も必要。 		

